

母子手帳から見た風疹低抗体価の 産褥婦のワクチン接種率向上に向けて

日本小児感染症学会
2017.10.21

—母子手帳で母親の妊娠中の風疹抗体価も
チェックしよう—

わたなべ小児科医院
渡部礼二



**第49回日本小児感染症学会年次集会
COI 開示**

筆頭発表者名： 渡部 礼二

日本小児科学会の定める利益相反に関する
開示事項はありません

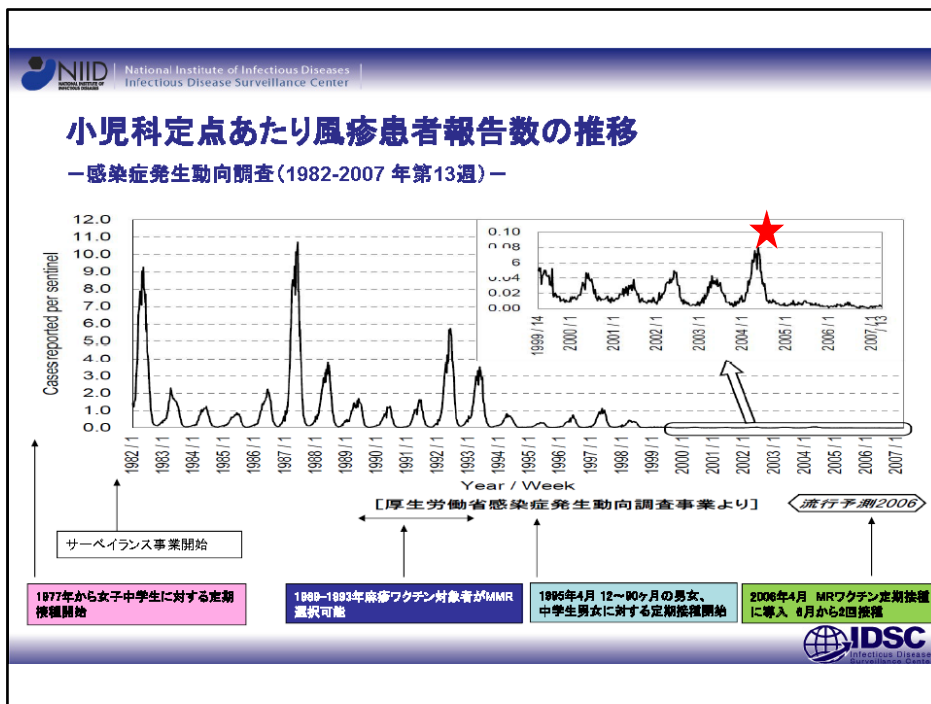
この演題に関してCOIはありません。

定期接種としての風疹ワクチン

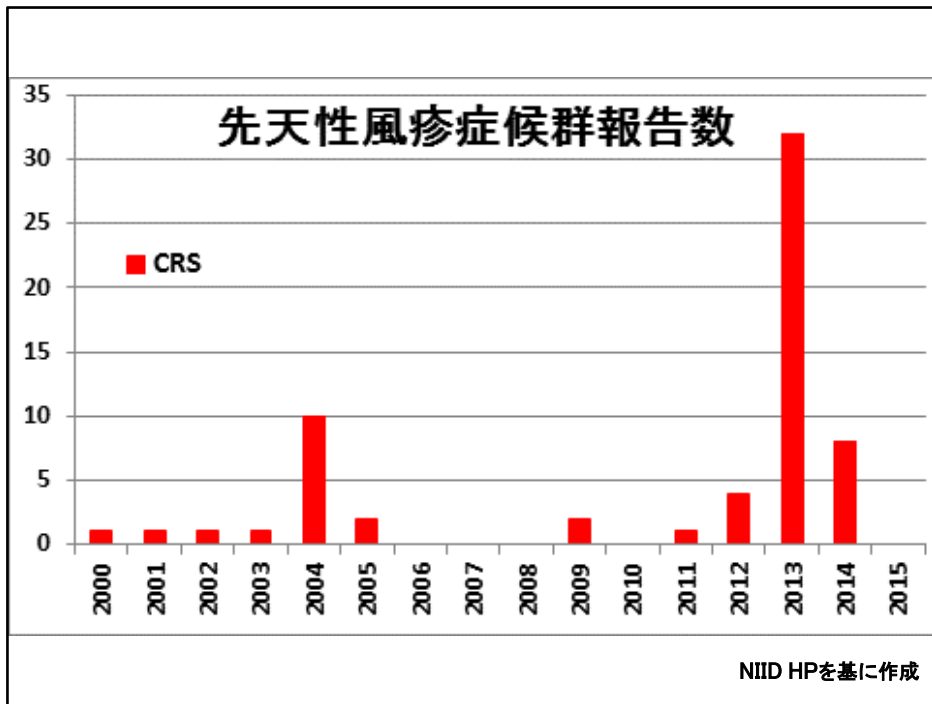
2017.10.1

年齢	生年月日	接種年齢(1回目)	接種年齢(2回目)	
～12y6m	2005.4.2～	1y時(MR)	小学入学前1年間でMR	↑ 個別接種 ↓
～17y6m	2000.4.2～2005.4.1	1y～5y(R)	小学入学前1年間でMR	
～22y6m	1995.4.2～2000.4.1	1y～7y6m(R)	中学1年でMR	
～27y6m	1990.4.2～1995.4.1	1y～7y6m(R/MMR)	高校3年でMR	
～30y0m	1987.10.2～1990.4.1	1y～7y6m(R/MMR)		
～38y6m	1979.4.2～1987.10.1	中学男女		
～55y6m	1962.4.2～1979.4.1	中学女兒のみ		

風疹ワクチンの目的は/先天性風疹症候群（以下C R S）の発生を予防することにあります。その為に、50年以上試行錯誤して来た結果が/今の接種制度であります。現在の妊婦たちの年齢は黄色の字で示してあります。



風疹は約5年毎に流行しており、



CRSは2004年に10人、2013,14年の風疹の大流行の後(あと)45名報告されました。

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 平成16年8月

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨
2. 定期予防接種勧奨の強化
3. 定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される者への接種強化
 - 1) 10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望あるいはその可能性の高い女性
 - 2) **産褥早期の女性**

妊娠中の風疹HI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の女性は、出産後早期(産褥1週間以内の入院中、もしくは1か月健診時に行うことが推奨される)に接種を受けることが強く勧められる。(その際の接種記録は、母子手帳の児の欄には記録せず、妊娠経過の欄或いは産後早期の経過欄に母親への接種であることを明記する。または、予防接種証明書を発行し、本人の記録として残す。)

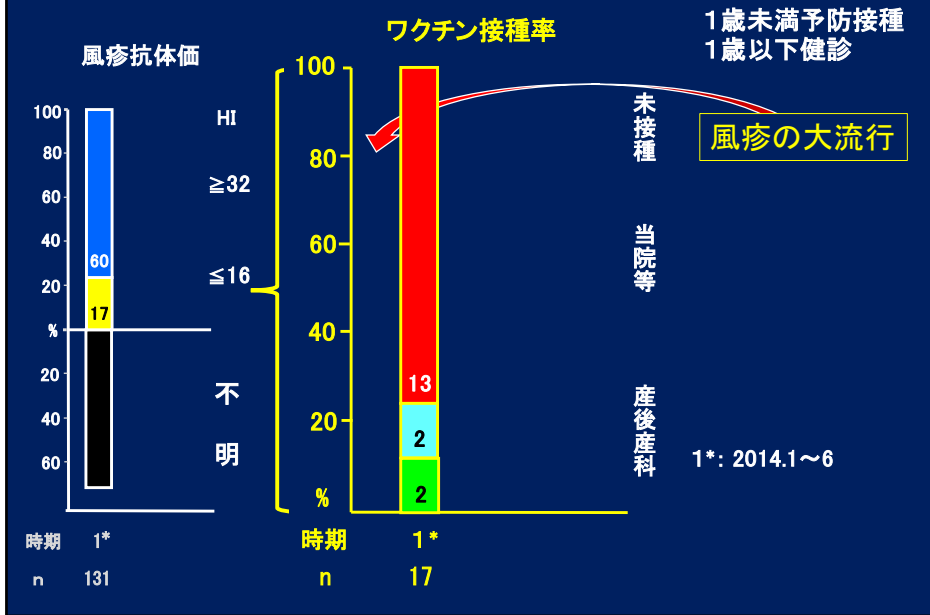
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班

先の2004年のCRS発生の後(あと)に/厚労省研究班からの緊急提言が出され、風疹低抗体価の産褥婦には/産後早い内にワクチンの接種を勧めております。同様の勧告は/日本産婦人科学会、日本産婦人科医会からも出されておりました。

***** 検査の記録 *****		
検査項目	検査年月日	備考
血液型	年 月 日	ABO B型 Rh+
不規則抗体	28年8月27日	陰性
子宮頸がん検診	28年8月27日	NILM(陰性)
梅毒血清反応	28年8月27日	陰性
HBs抗原	28年8月27日	陰性
HCV抗体	28年8月27日	陰性
HIV抗体	28年8月27日	陰性
風しんウイルス抗体	28年8月27日	64倍
HTLV-1抗体	28年8月27日	陰性
クラミジア抗原	28年8月27日	陰性
B群溶血性連鎖球菌	29年2月20日	(1+)陽性
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	

風疹大流行の2013年の暮れに、母子手帳のこのページで/HIの低い母親があり、聞くと、抗体価が低いことも、予防接種をしなければならぬ事も知りませんでした。なおスライドはHIが64倍の別の母子手帳であります。その様な児が続いたので、

妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



その翌月の2014年1月から6月まで6か月間/ゼロ歳児の予防接種や健診の時に、妊娠中の風疹抗体価と産後のワクチン接種状況を調べました。抄録では2015年となっておりますが2014年の間違いであります。また今回/1歳健診までに統一した関係上、抄録とは数字が異なっております。抗体価が判らない場合は産科に問い合わせてもらいました。

—スライドを説明しながら—

131名中77名の抗体価が判り、その内17名23%がHIで16倍以下の低抗体価で、その内2名しか産後ワクチンをしていませんでした。他2名は当院で接種をしました。

こちらは抗体価が判明したものを100%、こちらは低抗体価の母親を100%として表してあります。

これが！風疹大流行でマスコミが騒いでいる最中の/妊婦の実情でありました。

産科では

- ・ 低抗体価の産褥婦にガイドライン通り
ワクチン接種・・・一部
- ・ 抗体検査未実施
- ・ 希望者のみ抗体検査
- ・ 2子以降検査未実施
- ・ 3子以降接種せず
- ・ 低抗体価も接種勧奨せず
- ・ 低抗体価を従来の $HI \leq \times 8$ で判断
- ・ 授乳中は接種せず
- ・ ワクチンの在庫(一) ..などなど色々

接種しなかったのはスライドの様な理由の様でありました。余りにもお粗末だったので、その年の全国レベルの小児科の学会で報告し、市医師会報及び県産婦人科医会報に載せて頂きました。

低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防接種を！ 乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

担当理事 渡部 礼二

1 昨年から昨年にかけての風疹の嵐の後、その前報として本年度は32例、本年度は既に8例の先天性風疹症候群（以下CRS）の報告が感染症学センターになされています。

CRSを予防するには妊娠する前に風疹に対する抗体を維持して風疹に罹患しないようにすることが、抗体価の低い人はワクチン接種で抗体価を上昇させることである。妊娠が判明すると例外を除いてどの場合、胎児の抗体価を報告される。抗体価が低い（HI≦1:16）妊婦は妊娠20週までに風疹に罹患すると胎児にCRSを発生するおそれが多いので、人混みを避けるなど風疹に罹患しないよう注意がなされる。風疹に罹患せず抗体価が低いまま分娩したとしても、次子を妊娠する前（今回の産前早期にワクチンの接種を勧奨することになっている 男労省・日本産婦人科医学会）。

金沢市内の小児科で今年1月から4月に5ヶ月、1歳、2歳の乳幼児保健相談で受診した際、母子手帳で妊娠中の風疹の抗体価を測るものだけ記録し、真かつものにはワクチンの接種の有無を問いた。135名の健診児の内母で32は615名、≦1:16は15名、不明は71名であった。HI≦1:16の15名の内ワクチンを接種しているのは分娩後に1名だけであった。また1名はワクチン未接種のまま次子を産んでいた。

同様の調査が5月に3ヶ月児の集団健診で市内の一つの保健健康センターで「ロックスデータ」として行われた。110名の健診児の内、≧2:16は48名、≦1:16は36名、不明は26名であった。≦1:16の36名の内接種を勧奨された一部の8名だけがワクチンを接種していた。16名は接種勧奨もされなかった。

マスクにもあれ程騒がれた風疹流行の真っ只中から直後に判明した抗体価の低い妊婦であったにも関わらず、分娩後のワクチンの接種が余りにも少ない。一歩風疹ワクチンへの意識が低く、次子の妊娠時に一部CRSの危険性が低いと思われる集団でのことである。風疹の流行がなかった地域と

はいえ、この状態では風疹が入り込むとCRSは必発である。風疹抗体価の妊産婦が分娩後早々にワクチンの接種勧奨は当然であるが、小児科でも健診時に母子手帳をチェックして接種の勧奨をし、CRSの児が生まれないようにしてはいけない。我々は本土復帰前の沖縄でのCRSの多発を忘れてはいけない。

なお、石川県産婦人科医学会にはこの事実を報告後、早々に会員への注意を会報等に掲載された。



石 産 医 報 第 8 号
平成 26 年 6 月 3 日

会 員 名 位

石川風産婦人科医会

会長 伊 田 俊 彦



産後の風疹ワクチン接種勧奨について（お願い）

産後の換 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
今般、金沢市内の産小児科医から、産婦の風疹抗体価が異常に低いという報告を受けました。以下は、6か月・1歳・2歳児健診時の母親の風疹抗体価の統計です。

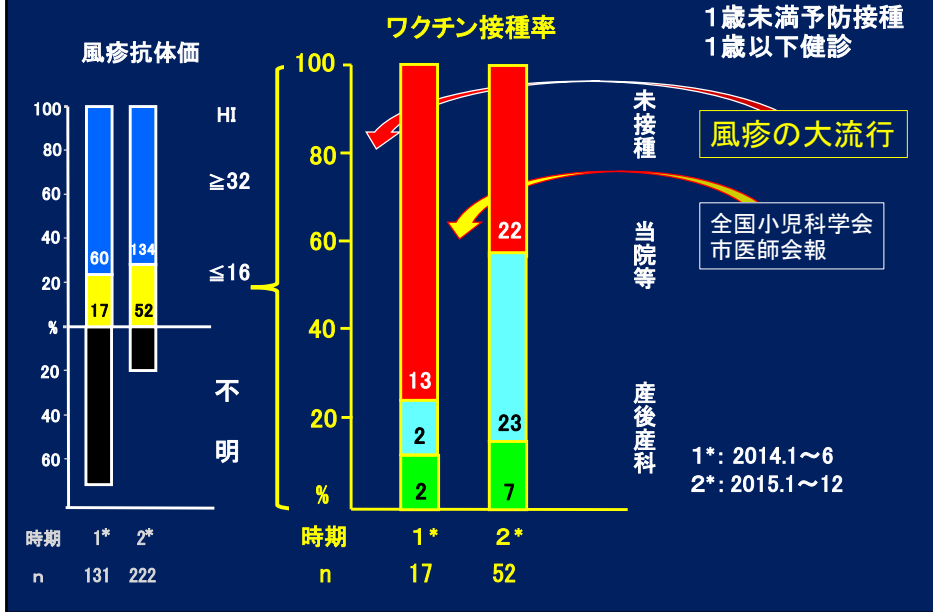
2歳児健診	総数 30 : ≦1: 3名 (内1名は接種前に妊婦)、≧2: 8名、不明 21名
1歳児健診	総数 42 : ≦1: 4名 (内1名は分娩後接種)、≧2: 13名 (内1名は上の死の時の値)、不明 25名
6か月健診	総数 63 : ≦1: 8名 (全て接種前)、≧2: 30名、不明 25名

◆135名中判明している15名の低風疹抗体価で産後ワクチンを接種したのは1名だけ。
◆殆どは抗体価が低くワクチンの必要性がある事も知らなかった。
(注：不明はデータの記載がないか、低価が母子手帳に使んでないもの)

このように、産後に風疹抗体価が非常に低いことがあります。このような状態で北陸に風疹が流行すればCRSは必発です。各医療機関におかれましては、抗体価の低い産婦等に産後早々の接種勧奨をお願いいたします。

これはその時の市医師会報と県産婦人科医会報であります。

妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



そして半年経った翌年の1月から12月までの1年間、同様のデータをとりました。低抗体価の者は52名(28%)で、その内7名(接種すべき産褥婦の13%)しか産院で接種をしていませんでした。指摘した後に接種した23名の殆どは私の所で接種したもので、トータル58%がワクチンの接種が出来ていました。

要望書

2016年6月19日

石川県産婦人科医会会長 荒木克己殿

石川県小児科医会会長 斉藤建二

風疹低抗体価産褥婦に対する産後ワクチン接種勧奨に関する要望

開発当初より風疹ワクチンは先天性風しん症候群(CRS)の発生予防をエンドポイントとして接種体制の変遷があり、2006年から現在の麻疹風疹混合ワクチンでの2回接種になりました。しかし、2004年には10例、2013から15年にかけて45例(内7名死亡)のCRSが報告されました。

2004年8月に「風疹流行および先天性風疹症候群発生抑制に関する緊急提言」が厚生労働省からなされ、その後日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、さらに2013年からの流行で再び厚生労働省から、低風疹抗体価の妊産婦に対する産褥期早期風疹ワクチンの接種も勧奨しております。

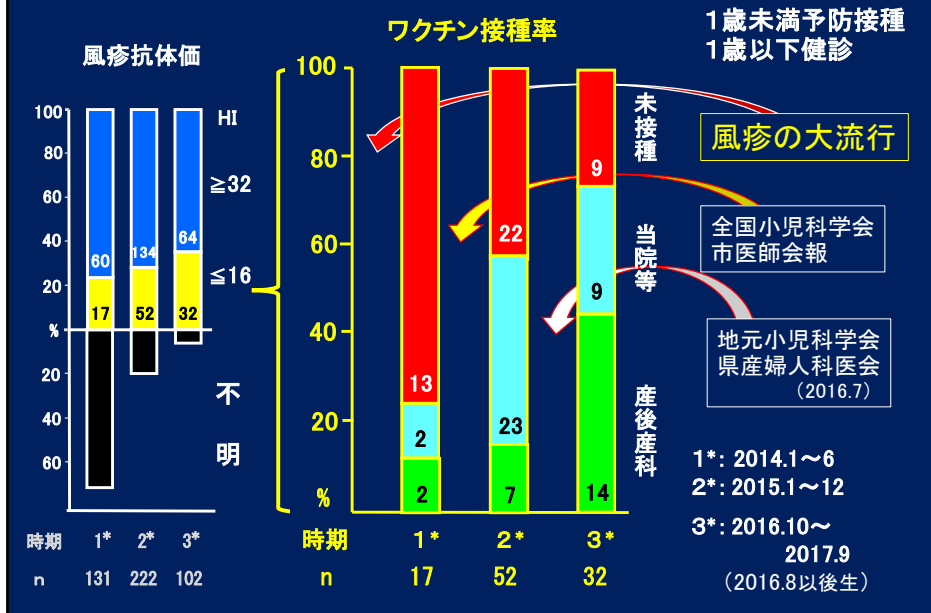
妊婦の風疹低抗体価は20%超と報告されており、石川県でも2015年度に小児科医会会員の母子手帳等での外来調査では、25%超(52/186)が接種勧奨のHI \leq 16であり、しかもその内産褥早期に産院で13%(7/52)しかワクチン接種されていないという発表がありました(2014年には年齢対象、調査期間は違うもHI \leq 16:22%、接種率20%)。

妊娠適齢期の年齢でしかもこの後次子を授かりやすい境遇にある風疹低抗体価の産褥婦であります。また石川県で風疹の流行が少なかったとは言え、全国で大流行しマスコミを騒がせた直後の値であります。

1965年の沖縄の流行でCRS408人を我々は経験しての今回のCRS報告であります。風疹は約5年毎に流行しております。風疹低抗体価の産褥婦には次子のCRS発生予防の為にまた社会免疫の為に、産後早期に少しでも多くの風疹予防接種の接種を小児科医会として切望しているものであり、貴会会員への厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産婦人科学会からの勧告・ガイドライン等に沿っての接種勧奨及び実施の周知を強く要望するものである。

まだまだ接種率が低いので、地元の小児科の学会で/母子手帳のチェックと接種勧奨のお願いをし、また/県小児科医会から県産婦人科医会へ/今度は文面で接種勧奨をお願いして頂きました。これはその要望書であります。県産婦人科医会では、総会でその報告と共に/接種勧奨のPRをしたそうであります。

妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



その後(あと)に生まれた児を対象として/同様に昨年10月から今年9月までの1年間の状況であります。やはり抗体の低いのは96名中32名33%位ありましたが、今度はその内14名44%は産後産科でワクチンを接種されていて優位に接種率は増加しております。その後(あと)当院などで9名28%接種し、今の所計72%に接種が出来ております。

まだ不十分ですが/実際に健診や予防注射を担(にな)っている地元の小児科医と/産科への働きかけが功を奏したものと思っております。

母子手帳でのチェックと接種勧奨は早ければ早いほどベターで、小児科初診である2ヶ月の予防接種の時や/院内出産では1ヶ月健診の時が/適切な時期かと思われま。Hib等の予防接種での次の受診時に/母親の風疹ワクチンの接種の確認と/催促も出来ます

結語

風疹低抗体価の産褥婦は産後早々に接種を！

母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

小児科でも母親への風疹の予防接種を！

産院にも声を掛けよう！

結語であります。

ワクチンの接種は産科に任せっきりにならないで、小児科でも母子手帳で母親の風疹抗体価のチェックをして、積極的にワクチンの接種をして行きましょう。

母子手帳から見た風疹低抗体価の
産褥婦のワクチン接種率向上に向けて

—母子手帳で母親の妊娠中の風疹抗体価も
チェックしよう—

わたなべ小児科医院

渡部礼二

日本小児感染症学会2017.10.21